

林いさお通信



ピカいち!! の
まちづくり

No.67 平成 22 年 10 月



三芳町の現状 知っていますか？

「不交付団体」神話の崩壊

三芳町は、平成 5 年から 18 年間、財政力指数が 1 を超え、
豊かな自治体だと言われてきましたが……。

硬直化した財政

経常収支比率は、99.6%、
財政は硬直化し、投資できる余裕はなくなっていました。

なぜ財政が悪化したのか

いろいろな要因が考えられますが、
この 4 年間で土木費 54.3% の増加が気になります。

積極的に情報を開示しない ビジョンが見えない町政

今年は、町の基本計画の見直しの年でした。
財政状況も含め、まちづくり懇話会で議題になりませんでした。

未来
開拓宣言!
やります! 明日の三芳のために!

三芳町は、国から支給される普通交付税が支給されずにすみ、財政豊かな町でした。

しかし、三芳町の現状を見ると、ここ数年財政状況は大きく悪化し、大きな岐路に立たされているのです。

三芳町の皆さんに、ぜひこの現実を知っていただければと思います。

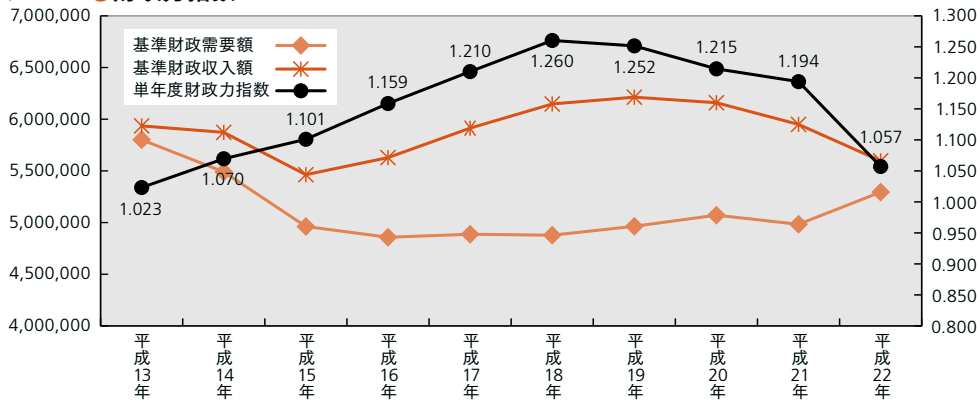
「不交付団体」神話の崩壊

三芳町は、平成5年から18年間、財政力指数が1を超え、普通交付税を交付されずにすみ団体で豊かな自治体だと言われてきました。しかし、今、まさにその「不交付団体」神話も崩壊寸前です。

グラフ1をご覧ください。平成13年から上がり始めた指数が、平成18年をピークに下がり始め、本年度は1.057となってしまう。交付団体への転落は時間の問題です。リーマンショックの影響もあったかと思われませんが、それ以前の19年度からその転落への助走が始まったといえます。

財政力指数とは、標準的な行政活動を行う財源をどのくらい自力で調達できるかを示した指標で、基準財政収入額を基準財政需要額で割って得た数値の過去3年間の平均値です。これが1を下回れば地方交付税の交付団体になり、1を上回れば不交付団体になります。

グラフ1 ● 財政力指数

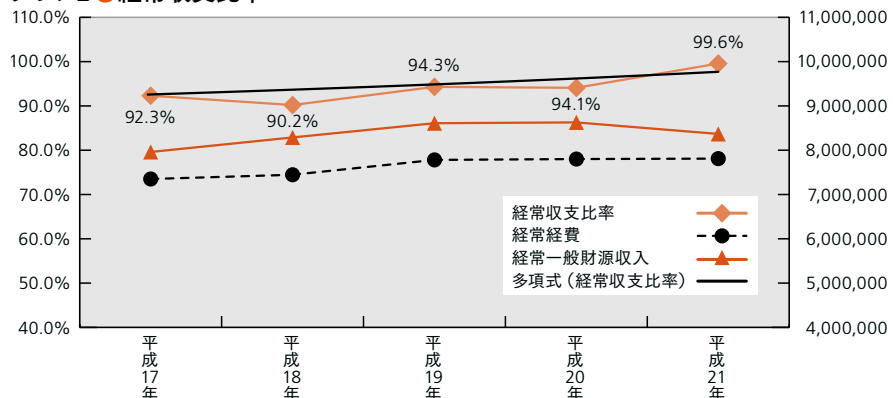


硬直化した財政

さらに問題なのは、財政そのものが柔軟性に欠け、硬直化していることです。これは、経常収支比率でみることができます（**グラフ2**参照）。お給料のように定期的に入ってくる収入から、食費やローン、光熱費などの経常経費にどれだけ充てているか。それを見るのが「経常収支比率」となります。この数値が低いほど、「投資」できるゆとりがあります。平成18年の90.2%から上がり続け、今年度は99.6%となり、投資できる余裕がないことを示しています。

経常収支比率には2つあります。収入に赤字地方債といわれる臨時財政対策債を加えたもの（三芳町では93.3%）と加えないもの（99.6%）。あくまでも臨時財政対策債は自治体の借金なので、不交付団体では経常一般財源とはいえず、これを除いた経常収支比率がより実態を示しています。

グラフ2 ● 経常収支比率

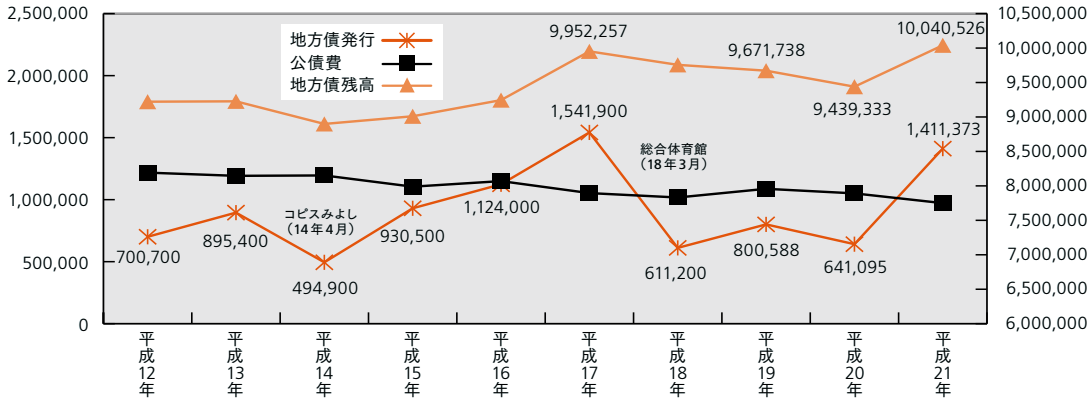


なぜ財政が悪化したのか——増える土木費

町のお金をどこに使っているのか。これを見るのに行政機能的に分けた目的別歳出があります。一般的に「民生費」「土木費」「教育

費」が三大経費と言われています。近年は、少子高齢化の影響で民生費の増加傾向が目立ちます。その反面、バブル期に上位を占め

グラフ3 ● 地方債残高



ていた「土木費」が減少し、「総務費」「衛生費」「教育費」と拮抗しています。

しかし、平成21年度決算では、土木費が、都市計画用地取得費や道路新設改良費の増加によって前

年度比68・6%(町長就任以来で54・3%)増加し、民生費に次ぎ二番目に大きな構成比となってしまいました。この目的別歳出は、首長の政治姿勢が見えやすく、政策的視点で財政を見るには最も重要です。今後見込まれる、大きな歳出を伴う事業は、表1の通りです。この中には、消防庁舎建て替え、スマートーCフル化、中央公民館建て替え等は含まれていません。

また、グラフ3の地方債残高を見ると、平成17年の体育館建設時には、99億円になりましたが、平成27年度には一般会計の町債残高が140億円以上になるとのことです。さらに膨れあがることは目に見えています。

積極的に情報を開示しない、ビジョンが見えない町政

残念なことに、こうしたことを多くの住民の皆さんは知りません。毎年、まちづくり懇話会が開催されています。多くの住民の皆さんから要望等をお聞きすることは重要なことです。しかし、本来のまちづくり懇話会の目的は、三芳町協働のまちづくり条例施行規則

表1 ● 今後見込まれる大きな歳出

1. 藤久保地区の土地区画整理事業(補助金を含む)

①北松原土地区画整理事業

平成22年度以降の残事業費……約7億円

(幹線道路・街区道路築造、公園外柵・調整池築造、移転補償費、調査設計費等)

②藤久保第一土地区画整理事業

平成22年度以降の残事業費……約7億5800万円

③富士塚土地区画整理

平成22年度以降見込み……約20数億円

2. 都市計画道路整備事業

平成22年度以降……約13億3000万円

(唐沢小学校に向かう交差点まで)

3. 学校耐震化

平成22年度以降……約7億3300万円

4. 町道幹線16号線雨水管布設事業

平成22年度……約1億3984万円

5. 今後の大規模事業の見通し

①公共施設の耐震化事業……約1.5億円

②志木大橋橋梁耐震化事業……約3500万円

③給食センター建設事業……約10億～12億円

④広域ゴミ処理場建設事業……約45億円

⑤消防庁舎建設事業……不明

6. 将来の町債残高

平成27年度見通し……約140億円

(但し消防庁舎建設費は除く)

第4条に、「町の重要な計画、施策・事業その他町政全般について住民と町長が意見交換を行う制度」明記されています。

実は、今年(三芳町)の基本計画である第4次総合振興計画(10年間)、都市計画マスタープラン(20年間)の中間年にあたり見直しの

年でした。若干のアンケートは取りましたが、本来は、まちづくり懇話会の中で、住民の皆さんに町の現状を伝え、意見を求め、未来の三芳町ビジョン策定のために反映させるべきではなかったのではないのでしょうか。

これでは、積極的に情報を開示せず、説明責任を果たさず、未来へのビジョンが見えない町政と言わざるをえません。真の協働のまちづくりからはほど遠い町政です。

ピカいちさん「町の現状を知ってる？」



絵・長女瑛子

編集後記 議員に当選以来3年半、自転車と徒歩で「林いさお通信」のポステイングを行ってきました。おかげさまで今号で67号となりました◆今回、はじめて街宣車と自転車で会報の配布を行ってみました。多くの住民の皆さんには好評のようでしたが、「赤ちゃんが眠れない」とのお電話をいただきました。配慮が足らなかったと反省しています◆実は、私もこうしたやり方は、地道にコツコツと活動してきた私には合わないのではないかと思います。そうした矢先でのお電話。その他にもご迷惑をおかけした方が大勢いらっしゃったかもしれません◆この会報が、そうした皆さんに届けばと願っています……。今後の活動のあり方については、今一度、多くの皆さんからお声をお聞きし検討していきたいと考えています。

ボランティアの募集
後援会活動のお手伝いをしたいだけの方を募集しています。
下記にご連絡下さい。

林いさお後援会事務所
〒354-0045
埼玉県入間郡三芳町上富1003
TEL 049 (259) 2228
FAX 049 (258) 0968
林いさお公式ホームページ
<http://www.isao.bz/>



念ずれば花ひらく(坂村真民)

◆坂村真民(さかむらしんみん)

“人はどう生きるべきか”を一生の命題とする祈りの詩人
明治42年熊本生まれ。8歳の時、父親の急逝によりどん底の生活に

落ちる。

5人兄弟の長男として母親を助け、幾多の困難に立ち向かう。四国移住後、一遍上人の信仰に随順して仏教精神を基詩とした詩の創作に転じる。平成18年12月11日永

眠される。享年97歳。
かつて、私も人生に迷った時、愛媛県の砥部町に先生を訪ねたことがあります。その時に、この書をいただきました。